

大阪外国語大学グリークラブ

第四一回定期演奏会

一九九八年一月二日(日)

午後二時半より
クレオ大阪西にて

新年早々、おさがせして
誠に恐縮です…。

衝撃
の
演奏

Gaigo Will Shine Tonight

Gaigo will shine tonight
Gaigo will shine!
Gaigo will shine tonight
All down the line!
Gaigo will shine tonight
Don't they look fine!
When the sun goes down
And the moon comes up,
Gaigo will shine!

Varsity

Varsity! Varsity!
Osaka Gaikokugo Daigaku!
Praise to thee we sing,
Praise to our alma mater
U, rah rah Osaka Gaidai!

大阪外国語大学学歌

世界をこめし戦雲
ようやく晴れて
東の空に明けの明星ひとつ
これぞ大阪外国語大学
建てよ建てよ平和の旗
叫べ叫べ愛の言葉
輝かせ文化の光

北シベリアの氷とざす野より
みなみ南洋の浪かすむ涯際
わが健児らの活動の天地
建てよ建てよ平和の旗
叫べ叫べ愛の言葉
輝かせ文化の光

大阪外国語大学グリークラブ顧問・同大学外国語学部地域文化学科
ヨーロッパⅡ講座 教授 (ドイツ語学) 高田 博之

第41回定期演奏会の開催、おめでとうございます。
今回もOB合同ステージを企画する定期演奏会にしようと、数としてはきわめて少ない部員たちが力の限り準備を進めてきたものと推察します。それだけに、部員たちに対して心よりお祝いのごとばを捧げたいと思います。今宵は、日頃の練習の成果を十分に発揮させて、外大グリーの伝統の力強いハーモニーを、部員たち同士で作り上げ、OBの先輩たちと分かち合い、そしてわれわれにも伝えてください。OB参加の皆様、ご協力本当にありがとうございます。

大阪外国語大学グリークラブ 部長

尾上 剛

本日はお忙しい中、私ども大阪外国語大学グリークラブ第41回定期演奏会にご来場いただき、まことにありがとうございます。

ところで、すでにお気づきのお客さまもいらっしゃるかと思いますが、定期演奏会には珍しく、表題「衝撃の演奏」が付されています。この「衝撃の演奏」の意味するところは、今日ここにお集まりいただいたお客さまそれぞれのご想像にお任せいたしますが、決してこれは「誇大広告」ではないということだけ申し上げておくことにいたします。

第1ステージの幕が開いた瞬間、皆様の全身に「衝撃」が走ることでしよう。時が経つにつれ、しだいに「衝撃」は昂揚し、幕が閉じられた後には、「衝撃」の余韻がホール全体を包み込むことでしょう。

そのような演奏会となるよう、団員一同力を合わせて進んでまいりました。今宵は、ホールにお集まりいただいた皆様とともに「さわやかな衝撃」を分かち合うことができれば幸いです。

最後になりましたが、ご指導・ご協力いただいた林誠先生、OB諸兄、中津孝司先生、関係者の皆様方に対しまして、心から御礼申し上げます。

プログラム

第1ステージ

グリー オムニバス

* 全国高等学校音楽コンクール課題曲集より

「めばえ」 作詞 みずかみかずよ 作曲 木下牧子
「未来」 作詞 谷川俊太郎 作曲 高嶋みどり

* John Rutter作品集より

For the beauty of the earth

作曲 John Rutter 編曲 松尾 年展

The Lord bless you and keep you

作詞 P.S. .Pierpoint 作曲 John Rutter 編曲 松尾 年展

* Negro Spirituals より

Little David, Play on yo' Harp

I Got Shoes

The Battle of Jericho

Little Innocent Lamb 編曲 M. Barthlomew ほか

第2ステージ

OB合唱団 参上!!!

～グリークラブ愛唱曲集～

指揮：河原 敬

「秋のピエロ」 作詞 堀口大祐 作曲 清水 脩
(男声合唱組曲「月光とピエロ」より)

「希望の島」 作曲 H.ジョーンズ

「最上川舟唄」 山形県民謡 作曲 清水 脩

Ride the Chariot (黒人霊歌より)

第3ステージ

海の ファンタジー

客演指揮：林 誠

男声合唱組曲「海鳥の詩」

作詩 更科源蔵 作曲 広瀬量平

オロロン鳥／エトピリカ／海鷗／北の海鳥

客演ピアノ：中津孝司

曲目について

<第1ステージ> 「グリー・オムニバス」

今年は「グリー・オムニバス『少人数コーラスのスズメ』」と題して、団員数の明らかに少ない私たちの様な団が歌える曲を選んでお送りします。

前半、「めばえ」は本年度のNHK音楽コンクールの課題曲。「未来」は混声合唱組曲「風に鳴る笛」のなかで唯一男声編曲されているものです。この2曲は本来、45人程度で歌われることを前提にされている曲ですが、比較的、少人数でも演奏できると考えました。また、「For the beauty ~」The Load ~」はJohn Rutterの混声合唱の曲をオリジナル編曲したものです。男声合唱の少人数向けの曲が見つかりづらければ、自分達でつくってみようということです。

後半は、外人グリー伝統のNEGRO SPIRITUALS(黒人霊歌)です。大航海時代、多くの黒人がアフリカからアメリカに奴隷として送り込まれ、激しい労働と悲惨な生活を強いられました。そんな彼等の心の支えとなったのがキリスト教でした。彼等は必ず誰にでも訪れる「死(それはすべての苦しみからの解放を意味する)」を肯定的に捉え、天国にいっき、きつと幸せになろうと願っていたのです。そのような中、聖書で得た題材から自分達の心の叫びを見出し、白人の音楽と自分達のアフリカの音楽とをむすびつけて表現したのがNEGRO SPIRITUALSです。私たちは70年間、SPIRITUALSを演奏し続けてきましたが、大人数で歌い継がれた曲が多く、今回はその中でも、少人数で歌えるであろうものを選びました。元来、これらの歌は必ずしも大人数で歌われたわけではなく、一人一人が思いを胸に歌い上げれば、そのメッセージは必ず何かの意味を伝えることができると信じています。

松尾 年展 (学生指揮者)



希望学園札幌北嶺高校卒業。現在、大阪外国語大学地域文化学科ベトナム語専攻3回。同学グリークラブ指揮者。れおくんは今年も同じ写真を使い若さをアピールする。正指揮者になったとはいいが、今年は人数が少ないため事実上「振れない指揮者」(人数が少ないため、指揮だけに徹することができない。練習では滝井を用いて団員を混乱させている。こんなれおくんも3月がらはベトナム留学。この先のグリーはいったい...)。

(一)

<第2ステージ> 「OB合唱団参上!!」

・男声合唱組曲「月光とビエロ」より

「秋のビエロ」

清水脩氏の出世作。世界に知られた日本の合唱組曲の1つ。豪放なデュナーミクと繊細なアゴーギグをお楽しみください。

・「希望(のぞみ)の島」

男声合唱中最もよく親しまれた曲。密度の高いハーモニーが聴きどころです。

・「最上川舟唄」

山形弁のソロが素晴らしい効果的。清水氏の最高傑作のうちの1つ。ソロとコーラスの掛け合いが楽しい。

・「Ride the Chariot」

黒人霊歌の中でも、アップテンポでリズムカルで明るい名曲。チャリオットは天国への迎えの馬車。

河原 敬

(OB合唱団指揮)



1954年大阪府出身。大阪外国語大学外国語学部英語学科卒業。在学中よりグリークラブ指揮、バリトン独唱で活躍。大阪音楽大学教授林誠氏に発声・指揮の指導を受ける。26歳で大阪芸術大学青木弘義氏に師事しヴァイオリンを始める。元四天王寺高等学校英語科教諭。フランス・トゥーレーヌ甲南学園(トゥール市)英語科教諭。約1年ヨーロッパで生活し、帰国後桃山学院大学大学院文学研究科修士課程修了。現在、浪速高校英語科講師、桃山学院大学文学部非常勤講師、Kawahara Education Network代表。和泉市にて混声合唱団メルヴェイユ指揮者。

中津 孝司 (客演ピアノ)



1961年大阪生まれ。1984年大阪外国語大学ロシア語学科卒業。在学中グリークラブで指揮者、ピアニストを歴任。1986年金沢大学大学院経済学研究科修士課程修了。1987年ユーゴスラヴィア・プリシュティナ大学留学。1989年神戸大学大学院経済学研究科修士課程修了。現在、大阪商業大学商経学部助教授(ロシア・中東欧経済論)。主要著書に『ロシア・CIS経済の変容と再建』(同文館)『ソ連・東欧貿易経営論』(晃洋書房)『アルバニア現代史』(晃洋書房)『アルバニア語入門』(晃洋書房)等多数。ピアノを山本寿太郎氏に師事。

< 第3ステージ >

大阪外国語大学グリークラブ+大阪外国語大学グリークラブOB合唱団合同演奏

「海のファンタジー」

「更科源蔵氏の詩は、辺境の過酷な自然条件の中に生きなければならぬものの哀感を壮重に歌い上げている。歌われているのは鳥達であるが、勿論それにとどまるものではなく、人間存在の根源に連なる何かを内包し、同時に多くの人々と共通の願望においてつながっている。」（「海鳥の詩」楽譜前書きより）

この曲は近年、作曲された合唱曲の中では、何度も練習しなくては完成しないような不協和音が存在するわけでもなく、1小節ごとに拍子が変わったりするといったテクニカルな部分が特別あるわけでもない、いわゆるやさしい部類の曲だろう。言葉面からは海鳥の力強さとその周りの風景が浮かんでくるだけ。しかし、それは、やはり、紙の上の話であった。実際、音楽にして表現しようとする、自分を投影することのできる人間の気持ちなどを表わした曲と違い、「想像力」や「表現力」を非常に要求された。そして、実際にその風景や生命の力強さを表わす「音色や言葉」といったものに非常に大切さや難しさを感じることとなった。私達は非常に少ない練習時間で、この曲に、その淡々とした表面の奥に秘められているであろう、燃えるような何かを表現しなくてはならない。観客のみなさんがこの曲を聴いて、ほんの少しでも、海鳥のはばたきを感じてくだされば、私達一人一人と気持ちを同じくできたようでとてもうれしく思う。

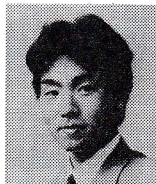
松尾 年展

林 誠（客演指揮）



大阪音楽大学大学院修士課程を修了。日伊声楽コンクール、マダムバタフライ世界コンクール、民音コンクール、マリア・カナロス（バルセロナ）コンクール等に入賞。ミラノ、ベルリンに留学。それらの演奏活動に対して、大阪文化祭賞、大阪府民劇場賞、音楽クリティック、芸術選奨文部大臣賞ほかを受賞。合唱音楽の方面では、カワイ合唱団、大阪音楽学院合唱団等を設立、鳳女声ハーモニー、三和銀行合唱団、大阪フィルハーモニー合唱団等を指導。現在、関西歌劇団団員、大阪音楽大学教授。日伊コンクール、日本音楽コンクール演奏連盟各審査員。

辻 拓哉（司会・ナレーション）



1968年京都市生まれ。1991年大阪芸術大学芸術学部放送学科卒業。在学中、レーベンスフラウ室内合唱団（京都市）に在籍。現在、RAB青森放送アナウンサーとして主に全国テレビニュース（NTV系読売テレビ）、ラジオの音楽番組などで独自の個性を発揮している。

大阪外国語大学グリークラブ・大阪外国語大学グリークラブOB合唱団 団員自己紹介

ごあいさつ

クラブ員の激減のなか、今宵見事に第41回定期演奏会を開催されましたことを心よりお慶び申し上げます。去年の第40回定期演奏会の折りに各地より賛助出演にかけつけたOBメンバーの間より、OB会結成の気運が高まり、また常々ご親切なご指導を頂いております林誠先生からも暖かい励ましのお言葉を頂き、去年の秋にOB会を結成いたしました。量、質ともに不十分ではございますが、一杯歌います。どうぞごゆっくりお聴きください。
最後に、大阪外国語大学グリークラブに対し、更なるご支援ご指導の程お願い申し上げます。

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団 代表 下司 浩之

<ご注意>

名簿の順番は原則的にあいうえお順で配列し、敬称略、パート名・卒団名を付記しました。なお、今回は所属学科名等は省略させていただきました。
なお、T1=Top Tenor T2=Second Tenor B1=Baritone B2=Bass を意味します。

・赤坂一郎 (B2, S35卒)

還暦を超えた輩が、20歳台30歳台の若者と一緒には情熱を注いでやれる趣味なんて、そうざらにあるものではない。

学生時代に外大でグリーをやったお陰で、私の場合、決して上手ではないが、臆せず、いろいろな合唱団に首を突っ込むことができた。神戸男声、関西合唱団等がその代表である。

社会に出てから幾星霜、長い人生には紆余曲折、思わぬ事態が生ずるものであるが、そうした折々に合唱やうたごえに励まされた。

関西合唱団では今も現役である。今年は、状況としては最悪で糖尿病での入院中。携帯用のデスターとインスリン注射器を鞆に忍ばせてのレッスンと相成っているが、変な遊びと違って、音楽のレッスンだと言えば回りは不思議と好意的で、門限破りを黙認して励ましてくれている。1月25日には大阪ドームでの「第九」にも挑戦する。

合唱とのつき合いは生涯続けたいものだ。

・大木 周 (T2, H7卒)

現役の人数減少ということで、出演することになりました。少しブランクがあったのですが、合唱というのは奥深いもので、何度歌ってもあきるところがありません。特に「海鳥の詩」は、私が高校時代の音楽の授業で歌ったもので、初めてふれた合唱曲です。初心に帰って歌いたいと思います。

・岡田吉治郎 (B2, S33卒)

卒業以来、38年の会社生活を了え、漸く、再

び、合唱の世界に戻れたことを嬉んでいます。長すぎ空白を埋めるのに懸命に努力中...

・尾上 剛 (T1, 現役4年)

歌をせんとや生まれけむ
合唱せんとや生まれけむ
歌うグリーの声きけば
我が身さへこそ動がるれ

『尾上剛・グリー秘抄』より

・河原 敬 (B1, S57卒)

元私立某女子高等学校教諭。国際交流目指し家族4人で渡仏。校長と衝突して退職。スペイン・南仏・イタリアを車でまわり、シャモニーでスキーを楽しみ帰国。桃山学院大学大学院文学部修士課程に40歳で入学。現在、桃山学院大学文学部非常勤講師。和泉市在住。

混声合唱団メルヴェイユ・代表・指揮者。
大阪外国語大学グリークラブOB合唱団指揮者。

・河盛龍三 (B1, S34卒)

仕事、学習、家族、を60年余りやって来て自信のないのがグリーです。が、楽しいのもグリーです。生涯の趣味の1つにしたいものです。

・紙谷敬治 (B1, S35卒)

在学中はまさにグリークラブ全盛時代を楽しませてもらいその勢いで現在もまだ続いているようなもので、すでに会社もリストラになりかけている年ですが、いつまでも万歳コーラス青年でいたいと祈っています。

・下司浩之
(B1, S30卒)

法的老人に達しましたが、まだまだ仕事も現役です。さすがに合唱の点では現役の若さには及びません。今回若い皆様と一緒に練習をさせていただき、少しばかり若返らせてもらった感じです。

・北村照夫
(T1, S57)

高校から歌い続けて、25年の歳月。

歌える限り歌い続けたい。

大合唱の時代に歌い始めたが、今や室内コーラスの時代。それに合わせるかのように各大学のコーラスも外大グリーと同じく人数集めに苦労している。

少ないから、一人ひとりが何人分かの声を出すのではなく、アンサンブルが基本であることを外大グリーの現役の皆さんも忘れないでほしい。

・牧本成俊
(T2, S59卒)

大阪外国語大学イスパニア語学科に入学と同時にグリークラブに入部、有意義な4年間を過ごした私もすでに卒業から約14年過ぎたというのに再びフル出演することになりました。卒業後は千里バッハ合唱団で多人数のコーラスに親しんできましたが、このような小人数で歌うのはあまり経験がありません。練習時間は少ないし曲は多いし大変ですががんばってやるぞ！

・榊原昭裕
(B2, H5卒)

10年前小生がグリーに入団するより更に9年前の「大阪四連」プログラムによると、外大グリーメンの性格は「見えつぱりで、お人好し」「頑固で、寂しがり屋」「義理に堅く、情にもろい」「自己顕示欲旺盛」の4つの傾向があった。自分は少なくともこのうち3つに当てはまる。第36回定演の自己紹介「歌心の伝わらない合唱よりはうるさいニグロのほうがはるかに好き」この思いは今も変わらない。先達清水脩はビエロ作曲において、「あくまで人間の自然な旋律を機能的な和声でさえ、広く大きな音空間を創り出した」、と林誠先生は指摘された「第30回定演プログラム」。さて平成日本の作曲家諸氏は、人間の自然な旋律にどれほど重きをおいているだろうか？単に刺激の強いものを提供し、容易に受けを狙う傾向はないか。各団体は演奏会云々以前に、日々集まった声を合わせ楽しみをどれだけ大切にして活動しているだろうか？病床で福永陽一郎は「いいかい、人間はネ、間違えるから音楽をするのだよ」と語ったと何処かで聞いた。武満徹は「音楽はみんなにとって超一流である必要はない」と言っている「『音楽』」。OBの河原先輩がある日こう言った。「上手いんだけど、何か感動しないコーラスもあるんだよね」

21世紀の男声合唱を創造し、OB合唱団と現役の二人三脚で良き伝統を発展させてゆきたいというのが、小生の夢である。

もっとも、「モテない・金ない・単位ない」「第35回プログラム」などと酷評されるような悪しき伝統は排除せねばならぬ。

以上、孤独なイブの榊原でした。「酷評されたの私です」

・松尾年展

(T1, 現役3年)

今年は何んと、編曲者として登場!? うまく行くのかどうかとても心配だけど、自分達が少しでも演奏できる曲が増えればいいなという、ただそれだけの思いで今回の編曲となった。是非、感想を聞かせてください。39回の定期演奏会のパンフレットで「彼の肩にグリーはかかっている」と書かれたが、本当にそうってしまった。

(;_:_)

・三森良太

(B2, H9卒)

大阪に戻れてよかった

...

・南野大介

(T1, H9卒)

昨年春に卒業したばかりのOB一年生です。現在、筑波大の大学院で、国際政治やロシア政治などを研究中です。今のところ合唱団には入っていませんが、今回、久しぶりに歌う機会に恵まれましたので、一生懸命練習してまいりました。今日の「海鳥の詩」では、とりあえず自分自身がまず北洋にいるように感じられる演奏にしたいと思っています。

<賛助出演>

山岡 史賢(やまおか ふみまさ)(B2)

奈良教育大学在学。

歌劇「ジャンニス・キッキ」のジャンニス・キッキや、喜歌劇「こうもり」のファルケ役を演じる。

また、モーツァルト「ミサ・ソレムニスk v 139」ソリストなど多数のコンサートにも出演する。

声楽交友会ベル・カント会員。(ミュージカル「モモ」ベッポ役・奈良教育大学合唱団コール・グレイス団員・なにわコラリアーズBassパートリダー)

おわび

出演者の皆さん
全員の自己紹介文
(挨拶)を掲載した
ようと努めました
が、編集作業の進
捗状況、依頼の発
送作業ともに予想
以上に遅れ、実現
しませんでした。
心よりおわび申し
上げます。

グリークラブ編集係

歌詞（ステージ別）

<第1ステージ>

「めばえ」

みごもる
ははのだいちは
そこぶかくたいどうをはじめた

いてついたかたいつちのおもては
つかれきって
ねむったままだけれど……

きびしいさむさからまもられて
ふくらみつづけた
ちいさないのちたち

おしあい
へしあい
ぐいぐいと
あふれるちからで
くらやみから
ひかりへむかって
のびあがってくる

つたわる
つたわる
ちからづよいこどう

ふるえる
ふるえる
ゆるみはじめたたいき

はるのめは
やがて
いっせいに
うるむ

「未来」

青空にむかって僕は竹竿をたてた
それは未来のようだった
きまっている長さをこえて
どこまでもどこまでも
青空にとけこむようだった

青空の底には
無限の歴史が昇華している
僕もまたそれに加わろうと――

青空の底には
とこしえの勝利がある
僕もまたそれを目指して――

青空にむかって僕は竹竿をたてた
それは未来のようだった

For the beauty of the earth

For the beauty of the earth,
For the beauty of the skies,
For the love, which from our birth,
Over and around us lies:
Lord of all, to thee we raise
This our joyful hymn of praise.

For the beauty of each hour,
Of the day and of the night,
Hill and vale, and tree and flower,
Sun and moon and stars of light:
Lord of all, to thee we raise
This our joyful hymn of praise.

For the joy of human love,
To our race so freely given,
Graces human and divine,
Flow'rs of earth and buds of heav'n:
Lord of all, to thee we raise
This our joyful hymn of praise.

The Lord bless you and keep you

The Lord bless you and keep you:
The Lord make his face to shine upon you,
To shine shine upon you and be gracious unto you:
The Lord lift up the light of his countenance upon you,
And give you peace,
Amen.

Little David, Play on yo' Harp

**Little David, play on yo' harp, Halelu.
David was a shepherd boy.
He killed Golia and shouted for joy.**

**Little David, play on yo' harp, Halelu.
Joshua was de son of Nun.
He never would quit till his work was done.**

Little David, Play on yo' Harp, Halelu.

I Got Shoes

**I got shoes, you got shoes,
All o'God's chillun got shoes:
When I get to Hebben, gwine a put on my shoes.
I gwine a walk all ober God's Hebben.
Ev'rybody talk about Hebben ain't a gwine dar
Hebben.
I gwine a walk ober God's Hebben.**

**I got wings, you got wings,
All o'God's chillun got wings:
When I get to Hebben, gwinea put on my wings.
I gwine a fly all ober God's Hebben.
Ev'rybody talk about Hebben ain't a gwine dar
Hebben.
I gwine a fly ober God's Hebben.**

**I got a harp, you got a harp,
All o'God's chillun got harps:
when I get to Hebben gwine a tune up my harp.
I gwine a play it all ober God's Hebben.
Ev'rybody talk about Hebben ain't a gwine dar
Hebben.
I gwine a play it ober God's Hebben.**

The Battle of Jericho

**Joshua fit the battle of Jericho,
And the walls come tumblin' down.
You may talk about your kings of Gideon,
You may talk about your men of Soul,**



**But there's none like good old Joshua,
At the battle of Jericho.**

**That mornin',
Right up to the walls of Jericho,
He marched with spear in hand,
"GO BLOW THAT RAM HORN," Joshua cried,
"CAUSE THE BATTLE AM IN MY HAND,"
Then the lamb, ramb, sheephorns begin to blow,
And the trumpet begin to sound,
Joshua commanded the children to shout,
And the walls come tumblin' down,
That mornin',
Joshua fit the battle of Jericho,
And the walls come tumblin' down.
Too true!**

Little Innocent Lamb

**Little lamb, little lamb, little innocent Lamb,
I'm gonna serve God till I die,**

**Hypocrite,
Tell you what he do,
I'm gonna serve God till I die,
He'll talk about me, an' he'll talk about you,
I'm gonna serve God till I die.**

**Debbil, he's a slippery shoe,
I'm gonna serve God till I die.
Now if you don't mind, he gonna slip it on you,
I'm gonna serve God till I die.**

**'Cause dere ain' no dyin' ober dere, in dat hebbenly
lan',
Dare'll be joy!**

**Jes' take one brick from Satan's wall,
I'm gonna serve God till I die.
Satan's wall gonna tumble an' fall,
I'm gonna serve God till I die.**

**'Cause dere ain' no dyin' ober dere,
In dat hebbenly lan',
Dare'll be joy!**

<第2ステージ>

「秋のピエロ」

泣き笑いしてわがピエロ
秋じゃ! 秋じゃ!と歌うなり。
0の形の口をして
秋じゃ! 秋じゃ!と歌うなり。
月の様なるおしろいの 顔が涙を流すなり。
身すぎ世すぎの是非もなく おどけたれどもわがピエロ
秋はしみじみ身にしみて 真実涙を流すなり。

「希望の島」

1. はるか隔つ 海のかなた
波風しずかに
四時花咲き 香りは満つ
あわれこの島よ
希望の島 希望の島
ものみな足り満ち
陽は落ちず 花散らぬ
よろこびの ところよ

あめつち
2. 天地には 光満ちて
御空に星光り
かたらい 心あがる
あわれこの島よ
希望の島 希望の島
ものみな足り満ち
陽は落ちず 花散らぬ
よろこびの ところよ



「最上川舟唄」

1. 酒田さ行くはげ まめ 達者でろちゃ
はやり風邪など引がねよに
別れつらさよ 山瀬の風だ
俺をうらむな 風うらめ
あの子のためだ
なんぼとっても たんとたんと エーンヤコラ...

2. 酒田さ今町 泣いて通るからす
銭も持たずに かおかおと
五間二尺のござ帆をあげて
くだす酒田の大湊
あの子のためだ
なんぼとっても たんとたんと エーンヤコラ...

Ride the chariot

Ride the chariot in the morning, Lord.
I'm gettin' ready for the judgment day.
Are you ready my brother/sister?
Are you ready for the journey?
Do you want to see your Jesus?
I'm waitin' for the chariot 'cause I'm ready to go.
I never can forget that day, ride!
When all my sins were taken away,
My feet were shached from the miry clay,
I'll serve my Lord till judgment day,
Ride the chariot to see my Lord.



<第3ステージ>

「海鳥の詩」

「オロロン鳥」

オロロン
オロロンとなげば
岩も
もの言わぬ岩も
オロロンと答える

切岸の
岩棚の
歯の上に
生命あたため
海を見る
ウミガラス
ウミガラス

ふるさとは
岩の上
雨ふれば
陽にやかれ
風ふけば
骨かれる

水平の
落日に
胸は燃え
海 昏れば
胸しづみ

光をもとめ
南をしたい
たどりつく
ウミガラス
オロロンとなげば
海も
海も岩も
オロロンと答える

「エトピリカ」

濃い霧にめしい
黒々と
波のどよめく
オホーツク
風走る岩棚の
草原に首を振り
海を見 風をきく
エトピリカ
氷の臭いにしびれ
ぎこちなく
カタカタと翼
ふるわせ
火を抱いて
ゴーゴーと鳴る
荒磯に生命さぐる
エトピリカ

岩窟の土穴の
ぬい 生命に
そうそうど
冠ををひかせ
目を見張り
霧にもめげずに
飛ぶ限り
神はいる

「海鵜」

首をのぼし
風をきき
首をちちめ
潮をきく
蒼く寒く
うねりうねる
親潮の
キラキラと

くずれただよう
銀のいろこ

荒磯は
洗いくだけ
底しれず
行方も知れぬ
黒潮の
渦の濃霧は
鉛のみ
ドロロンとなる

鵜はなかない
首をのぼして
寒流をさぐり
首をちちめて
暖流をきく

「北の海鳥」

ふるさとは
キラキラの
光散る
北の海
北の空
オロロン
エトピリカ

ケイマフリ
生と死は
ろろんと
ゆれ動き
ゆれ返す
深き海底

ごうごうと
重く渦ず巻き
天にとどろく
オーロラの
たゆとう季節

空を行く
笛の音にて
月の夜は
月にぬれ
胸いたみ
口ごもり
息をのむ

みずかきの
冷たくしびれ
落日の
燃えゆく彼方に
あかね色
花を夢みて
夕色
波をけり
岩をけり
鵜を呼び
どうどうの
シタキ(*)にのり
虹をくぐり

雪を抱く
雲となり
風にまかせ
天と地の
空と海との
人と神
一つにとける
キラキラの
光の彼方
南天の
星をめざすか
北の海鳥

(*)
シタキ：雪や雨を伴う
突風

フェアウェルのページ

「もし、グリーがなかったら」

たとえ、充実した大学生活を送っていても、
グリーがなければ、私は「食う・寝る・遊ぶ」のただの学生。
たとえ、十分な財産を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようと、
たとえ、自分の生命をささげるほどの愛する人がいたとしても、
グリーがなければ、無に等しい。
全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、
誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、
グリーがなければ、わたしには何の益もない。
グリーは忍耐強い。グリーは情け深い。ねたまない。
グリーは自慢せず、高ぶらない。
礼を失せず、自分の利益を求めず、
苛立たず、恨みを抱かない。
すべてを忍び、すべてを信じ、
すべてを望み、すべてに耐える……
それゆえ、グリーと希望と愛、
この三つは、いつまでも残る。
そのなかでもっとも大いなるものは、グリーである。

——グリークラブよ、ありがとう。いろいろ迷惑かけて、申し訳ありませんでした。
みなさんも、お元気で。それでは。

尾上 剛

* 編集後記

今年は現役団員の数がわずか2名と、本当はコンサートはおろか合唱することさえ成り立たない状態でしたが、OB諸氏の力強いバックアップのもとに、こうして演奏会を開くことができ、大変光栄です。

このような状態と自分の将来に対する不安があいまって、編集作業は遅々として進まず、皆様にご迷惑をおかけしましたことを深く反省しております。

つたないパンフレットではございますが、団員一人一人の思いが込められているものであると信じています。

最後に、このパンフレットを手にしたみなさん、どうか末永くお納めいただきますよう、団員一同、お願い申し上げます。



第41回定期演奏会「衝撃の演奏」パンフレット

大阪外国語大学グリークラブ

1998年1月11日 午後2時30分 クレオ大阪西

編集・デザイン 尾上 剛 印刷 エ房ムーゼン



アンケート

本日は、大阪外国語大学グリークラブ第41回定期演奏会にお越し下さいまして誠にありがとうございます。今後の活動の参考にさせていただきたいと思いますので、お手数ですが、皆様の率直なご意見・ご感想をご記入下さいますよう、ご協力をお願い申し上げます。

◆性別（男・女）◆年齢（ 歳）◆ご職業（ ）

◆どのようにしてこのコンサートをお知りになりましたか。

（ ）部員からチケットを入手 （ ）招待状にて
（ ）学内、学外のポスターを見て （ ）その他

◆各ステージについて、ご自由にご感想をお書き下さい。

第1ステージ：グリーオムニバス

第2ステージ：OB合唱団参上（グリー愛唱曲集）

第3ステージ：海のファンタジー（男声合唱組曲「海鳥の詩」）

◆ステージマナー、構成などについて

◆チケット、チラシ、パンフレットについて

◆その他、お気づきの点がございましたら、ご記入下さい。

※ご協力ありがとうございました。お帰りの際アンケート箱にお入れ下さい。

大阪外国語大学グリークラブ 1998/ 1/11（日）